

令和2年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和3年2月25日

学校法人 宝国学園 真教寺宝国幼稚園

1. 本園の教育目標

一人ひとりの今がかがやく保育

- ・みほとけさまを拝む子ども
- ・お話を聞ける子ども
- ・ありがとうと言える子ども
- ・仲良くできる子ども

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

・子どもの思いや気持ちを理解し、大切に作る保育

子どもの姿に「驚く心」を見通しを持ち援助する「まめやかさ」を。それを言葉で伝えあうことを。

{重点課題}

- ・子どもの興味関心に沿った環境の設定
- ・子どもの主体性を引き出す「言葉がけ」(指示命令禁止の言葉を使わない)
- ・異年齢・ほうこく保育園との交流の充実

3. 評価項目の達成及び、取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	保育の計画性	B	園の教育理念や方針を理解し、各学年に応じた計画や環境の構成をしている。また研究保育をして見せ合い、次の保育に生かせる様に評価・反省をしている。
2	保育の在り方・幼児への対応	B	一人ひとりをよく見て、クラス関係なく適切な言葉がけや対応をし、幼児の発達に応じた関わり方をしている。教職員全体でよく話し合い共通理解するように努めている。
3	保育者としての能力や良識・適正	B	保育者としての誇りと自覚を持ち、社会人としてのマナーを守り行動している。教職員全員で一つのチームとして考え、報告・連絡・相談をしている。
4	保護者への対応	B	守秘義務を遵守し、丁寧な対応をしている。普段からお帳面やクラス便り、メール、ドキュメンテーションなどを通して様子を伝えるようにしている。
5	地域の自然や社会との関わり	C	他施設や地域の方と行事や活動を通して交流している。小学校とも連絡を取り、スムーズな連携を心掛けている。
6	研修と研究	C	園内・園外の研修に意欲的に取り組み、子どものみと内面理解について研修を行い、教職員全員で共通理解している。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	今年度の重点課題を心掛けて保育の中で実践することが出来たように思う。さらに細かく深いところまで実践できるように保育の質の向上に努めていきたい。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	環境の構成	幼児が自ら活動を生み出していけるような環境構成を、季節に応じて整えていく。また見通しを持ち、発想を柔軟にし取り入れられるようにする。
2	異年齢児との関わり	異年齢児との交流する時間をもう少し増やす。自然な関わりが出来るよう、環境構成を工夫する。
3	研修への意欲・課題	課題を持って園外での研修に参加し、それを持ち帰って教職員全員で共通理解に努め、園内研修の充実に努める。また、預かり保育や子育て支援、保幼小連携についても取り組んでいくようにする。
4	保護者対応	保育者がチームとなり、いろんな幼児の姿を共有し、全員で保護者と向き合えるよう努める。外部講師や心理カウンセラーの先生とも連携を密にとり、細やかな関わりをしていけるようにする。

6. 学校関係者評価委員会の評価

<p>他園がコロナ感染防止対策が、年間行事がすべて中止という中、子どもたちの育の場を第一に考え下す、感染予防対策を万全にして行事を開催して頂いたことは、保護者として感謝しています。教育活動全体において成果が、          父母の会 会長</p>